

第233回 「元気に百歳」クラブ・俳句サロン「道草」(6月)句会記録

6月21日、関東甲信越地区も梅雨に入りました。それも線状降雨帯と一緒にやって来ました。特に南九州地区の水害が心配されます。そして、雨が止み空が晴れて、日が照り始めますと、関東各地とも気温は30度を超え、直ちに熱中症警戒警報です。地球温暖化は、ますます激しくなってくるように思います。私たちは健康にはますます留意して、元気に生きてゆかねばなりません。

さて6月の「道草」句会です。仲夏を迎え、全員の投句54句が揃いました。皆さんが提出句のために選ばれた季語ですが、梅雨、梅雨晴れ間、紫陽花、植田、水田、蛍、蛙などが、多くなるかと予想しておりました。結果的にはバラエティに富んだ季語が使われたと思います。たとう紙、鰻寿司は、白然には初見参の季語でした。6月の句会にご参加の皆さまは、下述の通りです。投句参加は全員、どうぞよろしくお願い致します。

○ 投句に参加して下さった方々のお名前(18名)

芦川創風さん、板倉歌多音さん、井上蒼樹さん、太田一光さん、奥田和感さん、金田月草さん、君塚明峰さん、木村栄女さん、坂上まさあきさん、高瀬荻女さん、辻 柴楽さん、手嶋錦流さん、中島懂岳さん、原 晶如さん、船戸清助さん、本間傘吉さん、森田多佳さん、芦尾白然。

○ 句会に参加された方々のお名前(10名)

月草さん、多佳さん、傘吉さん、創風さん、錦流さん、荻女さん、明峰さん、晶如さん、和感さん、白然。

今月の投句一覧表作成から選句結果の纏めは、森田多佳さんに担当いただきました。今月のイラスト画の挿入は紫陽花です。一瞬ではありますが、纏めの最終頁、紫陽花のイラストを見ますと、ホッとします。多佳さん有難うございます。6月の優秀句に推挙された句は下述の通りです。

◎『しなやかに溝跳び越えし猫に夏』	まさあき	天3☆5
◎『田植え終えアルプス映す水鏡』	栄女	天2☆6
◎『鰻寿司で木屋町の夜終わりとす』	栄女	天1☆6
◎『万緑の真中に社ひっそりと』	多佳	☆7
◎『豆腐屋に客が集まる薄暑かな』	明峰	天1㊦4
◎『短夜の夢に夫をり声なくて』	荻女	天1㊦3
◎『簾かげ大欠伸する猫の午後』	栄女	天1㊦3
◎『「子育て中」ガレージにメモ燕来る』	歌多音	天1㊦3
◎『わが庭をわが物顔に蝦蟇が往く』	傘吉	天1㊦3
◎『雨蛙泥にまみれてわが庭に』	清助	天1㊦2
◎『たとう紙を広げて吐息更衣』	一光	天1㊦2
◎『六月のカフスボタンの重くあり』	明峰	天1㊦2
◎『夏暁の枢に白き影のあり』	荻女	天1㊦2
◎『梅雨晴れ間大きく旅客機弧を拡ぐ』	まさあき	天1㊦1
◎『遠雷にびびりながらもペダル漕ぐ』	柴楽	天1㊦1

今月、皆さんが投句して下さった句について次のことを提案させていただきます。それは次の三点をご再考願えないかということです。先ず第一は、皆さんが句の中で取り扱われた季語は、句の完成まで、一番大事に取り扱われたと思われますか。

第二点は、住田先生からよく忠告を受けたことですが。句を何度か繰り返し読み返した

後で、その句に対して、「それがどうした」と、問い返してみてください。問い返しに負けない回答が出来るでしょうか。

第三点は、出来上がった句を何度か読み返して、句の中で使われた助詞は、句の中で最適切な助詞をお使いになったと思われますか。もう一度、読み返されることをご提案申し上げます。

今月の優良句の中で最多天賞獲得句は、天賞三つと優良句得票5票を獲得した、まさあきさんの句「しなやかに溝跳び越えし猫に夏」でした。季語は下五の「猫に夏」、上五に「しなやかに」と詠み、猫の「しなやかさ」を訴求しましたが、そのおかげで、この暑い夏を猫がしなやかに過ごしていくであろうことを暗示し、読者の共感を得ました。下五を「猫の夏」にし、猫のバックグラウンドを大きくするのは如何でしょうか。

次に栄女さんの句「田植え終えアルプス映す水鏡」が、天賞二つと高得票6票を獲得しました。上五の「田植え」は季語ですし、この句の場合、「田植え」の「え」を省略すること（それも付けるならば「ゑ」です）。そして「田植」を修飾している動詞「終え」ですが、ここはスマートに二句一章の文語体で詠むならば、「田植終ふアルプス映す水鏡」で如何でしょうか。上五から中七、そして下五と、農家の皆さまの「今年も水田までは仕上げた」という喜びが、句の行間から滲ませています。（ご参考までに、この場合の「終ふ」は、文語体のハ行下二段活用動詞です）

次に天賞一つと高得票6票を獲得した栄女さんの句をもう一つ、「鱧寿司で木屋町の夜終わりとす」ですが、ここでは中七に表現した「木屋町の夜」が、賑やかなるも、何か愛おしさ、遣る瀬無さを匂わせているように思われます。流石、京都に精通していらっしゃる栄女さんの句であると納得、大拍手でした。この句は鱧寿司についても栄女さんに教わることが大いにあったと拝察しました。

多佳さんの句「万緑の真中に社ひつそりと」が、天賞は付きませんでしたでしたが、最多優良句得票7票を獲得し、最多得票賞（☆印）を獲得しました。この句の季語「万緑」とは、「見渡す限りの新緑のことである」とあります。そして漢語「万緑叢中紅一点」が、辞書の参照から出てくるように、万緑の中の紅一点の「紅」が極めて目立つように、下五の「ひつそりと」で良いかどうか、万緑の中の「社」を如何に極めつけるかに、かかっているのではないのでしょうか。ご一考いただきたく申し上げます。

次に高瀬荻女さんの句「短夜の夢に夫をり声なくて」は、天賞一つを獲得している句ですが、この天賞は白然が推挙したのですが、句会記録では次の「ひと言」を申し上げます。この句の季語は上五「短夜の夢」の「短夜」、句意は「短夜の短い夢の中、ひょっと出てきてくれた夫なのに、声を掛けてくれないなんて・・・」というものでしょう。言葉の間からは、声を掛けてくれぬ夫への恨みさえ感じます。そこで次の一句が浮かんできました。如何でしょうか。

「もの言はぬ夫の居し夢明け易し」とか、「もの言はぬ夫出る夢明け易し」とか。

白然記